

2016.5.9 <尊ぶ>

5月9日は、ノートルダム教育修道女会創立者マザーテレジア・ゲルハルディンガーの祝日です。全世界のSSND（ノートルダムのシスターズ）およびノートルダムに関係する学校などでは、マザーテレジアに始まる教育活動を喜び、祝っております。

日本では、毎年 この祝日を記念して、ノートルダム学院小学校、ノートルダム女学院中学・高等学校、京都ノートルダム女子大学の教職員が集まり、合同研修会をもっております。

本年は、5月7日（土）午後に第21回ノートルダム3校合同研修会をノートルダム学院小学校で開催いたしました。

「ノートルダムのグローバルとは」をテーマとした昨年の研修会で、グローバルに活躍するよう児童・生徒・学生を育成するためには、”異なる他者の考え方、経験に学び、違うことを許す力をつける“ことが肝要であるという理解を得ました。本年は、その土台である、自尊感情・自己肯定感を児童・生徒・学生がしっかりもてるよう、その主体的成長に同伴する関わり方を学ぶ研修会といたしました。

講師の京都大学総合博物館准教授 塩瀬 隆之先生のご指導のもと、三校の教職員240名が一堂に会し、ノートルダムのミッション・コミットメントにうたう”尊ぶ“を中心に、ワークショップを重ねました。

「問いをデザインする」「言葉を共有する」「行動をデザインする」という3つのワークショップは、ある時は、小・中高・大 三校の教職員ミックスで、ある時は、校種別に、ある時は、2人で、4人一組で、8人で、というように組み替わりつつ、楽しく、興味にみちた3時間となりました。

”尊ぶ“とは？”自尊心のイメージは？””自尊心は育てるものか？”etc. etc. 今後考察・探索を続けるべき宿題をいただきましたが、日常関わる児童・生徒・学生の発達段階の違いからくる考えや、教職員の多様な個性からくる表現など、新鮮な関わりをし、校種の異なる職場の教職員からも学ぶことの多い半日だったと思います。私個人としては、自尊感情は、神との、人との、自分との、関わりの中で育っていくことを深く感じさせられた研修会でした。

創立者マザーテレジアは、預かった子供一人ひとりを、この上なく大切にし、日々 一人ひとりの上に神の特別の恵みを祈っておられました。マザーの慈しみに触れて、どの子も、それぞれに成長し開花していきました。私たちノートルダム教育の後継者も、”尊ぶ“というミッション・コミットメントを日々実践していくことができますよう、神の恵みと祝福を祈ります。

理事長 和田 環

